

【既定】	防災施設整備	予算額 421,940 千円
------	--------	----------------

事業の目的・概要

備蓄品の充実として、発災後 3 日間を乗り切るための区内食料備蓄の確保を着実に進めるほか、防犯ブザーなど女性向けの備蓄品の充実を図ります。また、太陽光発電による非常用発電設備が設置されていない震災救援所に蓄電池の配備を進めます。さらに、災害対応力の一層の向上を図るため、杉並中継所の跡地を井草防災拠点として暫定整備します。

主な取組内容

➤ 備蓄品等の充実

発災後 3 日間を乗り切るための食料備蓄 0.2 日分（令和 6 年度で累計 2.8 日分）を確保するとともに、女性が安心して避難所生活を送ることができるよう、防犯ブザーやメイク落とし、中身の見えない手提げ袋などを備蓄します。さらに、令和 6 年能登半島地震での課題を踏まえ、避難所生活におけるプライベート空間を確保するための間仕切りや断水の長期化に備えてのトイレ用収便袋を追加配備し、備蓄品の充実を図ります。また、太陽光発電設備のない震災救援所への大容量可搬型蓄電池の配備を 6 年度中に完了します（17 か所）。



発災後 3 日間を乗り切るための備蓄食料

➤ 災害拠点施設の防災機能強化

近い将来、首都直下地震の発生が危惧される中で、災害対応力の一層の向上を図る観点から、杉並中継所跡地を災害拠点倉庫、地域内輸送拠点等の機能を備える防災拠点として暫定的に整備するため、非常用発電設備の設置などを行います。

また、荻窪地域区民センターの改修に合わせて、災害時の第二次救援所や帰宅困難者の一時滞在施設等としての強化を図るため、マンホールトイレ、防災井戸等を設置します。



杉並中継所跡地（井草防災拠点）